



# 市政

菊池市政に民間企業での経験を!

意思決定・政策のチェックの場に  
培った視点を活かします

# 活動通信

平成30年12月議会 vol.3  
Kikuchi city council member Report

## 福島ひでのり

新年明けましておめでとうございます  
公職選挙法により選挙区内には年賀状  
をお送りできなかったこととお詫び申し  
上げます。

今年も菊池市の発展のため、議会にお  
いて「是を是として認め、非を非として  
反対し、公平的な立場」を貫くとともに、  
亥年にちなんでイノベーション（変革・  
改革）にも取り組んでまいります。

本年は、みなさまにとって素敵な一年  
になりますことを、心より願っています。



### Profile

- 1961年 7月 菊池市七城町高田生まれ（57歳）
- 1979年 3月 七城小学校・中学校を経て、  
鹿本高校卒業
- 1986年 4月 日本電子材料株式会社入社
- 2009年 10月 慶応義塾大学経済学部入学
- 2012年 4月 日本電子材料株式会社韓国法人  
（同和 JEM）代表理事副社長
- 2018年 3月 日本電子材料株式会社退社
- 2018年 5月 菊池市議会一般選挙に出馬し、  
初当選（1期目）

平成30年10月17日-19日に、福祉厚生  
委員会の研修で新潟県の見附市と十日町市を  
訪問しました。見附市では“スマートウェル  
ネス”活動で「外出したくなる施設」や、「自  
家用車に頼らずに暮らせる」まちづくりの一  
環として、【デマンドタクシー】・タクシー車  
両を使用し、決まった時刻に停留所で乗降で  
きるサービスや、【コミュニティワゴン】・各  
地域と見附地区をつなぐワゴン車。地域コミュ  
ニティが連携して定期的に運行する公共交通  
網があり、実際利用しましたが、利用されて  
いる方も多く活気を感じました。菊池市の公  
共交通網も、各地域内や各地域間をつなげ市  
民だけではなく観光客にも利便性を与えるた  
めの仕組み作りの必要性を感じました。

ご意見をお待ちしています!

購読者も募集しておりますので、お知り合いに  
ご希望される方があれば、お気軽にご連絡ください。

連絡先

〒861-1357 熊本県菊池市七城町高田 640-1  
TEL: 0968-24-3087 090-9076-1245 (携帯)  
発行者: 菊池市議会議員 福島 英徳

# 市民の声を市政に活かす 一般質問

議員個人が、市政について疑問点をたずね提案し、改めたいこと・実現したいことに関する報告や説明を求め、市長や部長等が答弁します。答弁内容から、執行部が適切な市政運営を進めているかを議員がチェックするものです。

## 骨髄移植ドナー登録への 取り組みについて

**福島：**日本国内で白血病・再生不良性貧血などの治療が困難な患者さんで、非血縁者間の骨髄移植や末梢血管細胞移植を必要とされている方は、毎年少なくとも2,000人と言われています。日本骨髄バンクに問い合わせたところ、血縁者だと兄弟姉妹では4分の1の確率で一致します。しかし親子では稀にしか一致せず、非血縁者（他人）間では、数百から数万分の1の確率でしか一致しないとのことでした。

現在のドナー登録者は全国で約49万人ですが、非血縁者で一致するのは県あたり年間1件から2件のことです。熊本県内のドナー登録者は、10月末現在6,951人で全国23番目です。そして県内では13人の患者さんが骨髄移植を待たれています。

菊池市内でのドナー登録者は、平成30年3月現在189名です。このような状況ですが、本市ではどのような啓発活動が行われているのかお聞かせください。

**健康福祉部長：**本市におきましては、より多くの方にドナー登録をしていただくため、骨髄移植について理解していただくことが重要と考えており、市役所や各支所、各公民館に啓発のための\*リーフレットを置いたり、広報やホームページへ掲載し、献血時に周知を行っています。

**福島：**献血時に周知されているとのことですが、今年10月に市役所で行われた移動献血車による献血の際、骨髄バンク登録推進月間だったにもかかわらず、見向きもされない職員の方がいて、とても残念だったとある市民の方からお聞きしました。反対に女性職員の方からは、体重や比重が足りないため献血はできないけど骨髄バンク登録は可能ですかと言って積極的に登録された方もいらしたとお聞きしました。

全国の自治体がドナー登録への啓発として、どのような取り組みを行っているのかを調べてみました。目に留まったのは平成30年11月15日現在で、38

都府県426市区町村の自治体が行っている提供ドナーへの助成制度です。

熊本県では宇土市のみが助成を行っており、患者さんに骨髄移植をされた場合、一律10万円を助成する内容でした。平成26年から制度化され支払われた件数は5件（50万円）、少なくとも5年間で5人の尊い命を救った可能性があるわけです。

生きるチャンスを善意によって広げていく！

ドナー登録にあたっては、わずか2ccの採血で済みます。いきなり骨髄液の採取はありません。そして誤解してほしくないのは、仮に患者さんと完全一致しても骨髄を移植するかどうかは、最終的には本人と家族の判断に委ねられますので、拒否することも可能ということです。

本市としても啓発活動として、助成を行う効果は十分にあると思いますが、考えをお聞かせください。

**健康福祉部長：**骨髄移植ドナーへの助成については全国レベル考えることであり、本市では考えていません。

**福島：**全国レベルでとの答弁ですが、国や県の動向を注視しなくても、既に426の自治体が助成しているわけです。宇土市の制度であれば、年間に2名の方に助成したとしたら20万円です。この予算で尊い命を救えるとなるといかがでしょうか？

**市長：**熊本県市長会で平成29年に要望書を提出し、平成30年にも同様に提出しています。これは国レベルで対応するべきであり、状況を見守りたいと思っています。

**福島：**本市には20万円を予算化できないほど財政が厳しいのでしょうか？

**市長：**繰り返しますが、市長会としては国の制度としてお願いしている段階であり、提出した要望書に矛盾するため状況を見守りたいと思っています。

## 菊池市のイベント開催のあり方について

**福島：**庁内でイベントを抱えている課や室は全部で14。イベントの総数は90件。予算総合計が7,600万円余りです。イベントと申しましても部門も多岐にわたり範囲も広すぎるので、今回は「まつり」と「スポーツ大会」に関して質問いたします。

先ずは10月27日に行われた、七城ふるさとコスモス祭り・コスモスウォークラリーについてお尋ねします。参加者が減少傾向ともお聞きします。その要因として、コスモスの量と質が関係しているように感じます。大会前にコースを散策しましたが、冠にコスモスと謳っているにしては、はっきりいってお粗末なレベルでした。市内外からの参加者へ"おもてなし"の気持ちで運営すれば、もっと素敵なイベントになっていたことだと思います。

このような感じを受けましたが、今後の取り組みについて考えをお聞かせください。

**経済部長：**運営に関しましては実行委員会で協議・検討が行われています。集客の目的として今年から、ウォークラリーではチェックポイントを設けて特産物の提供をさせていただき取り組みを行いました。コスモスについては、今年は夏場の干ばつの影響もあり生育が遅れたようです。

**福島：**イベントを行うことは部門間の横断であり、各団体や市民との連携で盛り上げるものだと思います。11月21日に各団体と議会で行った\*ワークショップ形式の意見交換会では、各団体からイベントが多すぎるとの意見をたくさんいただきました。イベントは盛り上がる、盛り上げるものであって疲弊してはならないと思います。イベントの企画はどこで行われているのでしょうか？また、どのような手順を踏んで決定されているのかをお聞かせください。

**教育部長：**スポーツイベントに関しては、各種目団体等との連携で準備を始め、実施後は必ずアンケートをとり、実行委員会で反省会を行い次年度につなげていきます。

**経済部長：**菊池市長、区長会長、JA菊池理事、議員経験者等で構成されている実行委員会で、存廃の見直し方針や課題・解決策を見つけています。

**福島：**そうそうたるメンバーで構成されている実行委員会のようですが、現状から想像するにとっても機能しているとは思えません。

次年度のイベント開催について存続か廃止かを決める、市民参加型の実行委員会を新たに設置するべきだと考えます。

そして、市職員を動員しなければならないイベントは極力なくす考えも必要ではないでしょうか。

一旦、現状のイベント数を半分ぐらいに減らし存続させるイベントの質を上げて、菊池のまつりやスポーツ大会の目玉を作るべきだと思います。

旭志で平成31年の元旦に行われる日本一早いマラソン大会。民間主導とのことですが、今後のイベントモデルとしても素晴らしい取り組みだと思います。

今後のイベント開催について、市長の考えをお聞かせください。

**市長：**市が携わっているまつりのひとつは、地域住民のふれあい交流。そして観光客を念頭に置いた集客による本市経済の活性化を目的としています。

毎回まつりの前後に、質の部分に対する見直しが行われており、各実行委員会等において企画段階では前年の反省、実施後も反省会を開いて集客の数等も含めて課題解決に取り組んでおられています。

数の問題については、平成17年の合併以降さまざまな局面で見直しがされ、今現在のまつりおよびイベントになっているわけです。ただし、市も一つになったわけで減らしたらどうかとの議論もあったようですが、旧自治体における地域の交流もあり、地域の方々の気持ちに寄り添って行う必要があります。

イベントによる疲弊の声があがるのは、ご負担が特定の人に集中しているからだと思うんですよ。そのような声は市役所職員からも長年聞いています。実態は職員の負担が多いことも多々ありますので、本来であればもう少し地域の人に入っていただきたいと思います。また存続か廃止については地域の方がどのようにかわろうとされているのかを活発に議論されて、そういう意見を率直に聞きたいと思っています。

\*リーフレット ☞ 宣伝・広告や案内・説明用に、1枚の用紙から作られ、2つ折りや3つ折りにされています。パンフレットは1枚の紙とは限らず、複数枚の紙を綴じて作成されています。

\*ワークショップ ☞ 参加者自らが積極的な意見交換や協働体験を通じて、まちづくりなどのコミュニティ活動における問題解決や合意形成の場としても多く活用されています。



## 平成 30 年 12 月定例会 市議会のできごと

### 短絡的な値上げには反対！

平成 30 年第四回菊池市議会定例会は、12 月 3 日から 12 月 21 日まで 19 日間開催されました。

今回の補正予算で、4 億 2,292 万円が追加され、一般会計予算の総額は 300 億円を超えました。

主な議案の中で条例の制定において、経済建設委員会に付託された議案第 99 号の温泉ドーム入場料値上げに対して、認めるわけにはいかず最終日の本会議で経済建設委員長報告の後、質疑および反対討論を行いました。

温泉ドームの入場料値上げ（330 円⇒380 円）に関して、執行部から提示された試算表では、現入場料では年間 630 万円の赤字とのことですが、積算根拠が乏しく判断基準とするにはあまりにもお粗末な試算表でした。仮にその試算表による赤字理由を認めたとしても、平成 29 年度の七城町振興公社（温泉ドームを含めた指定管理者）は黒字決算です。トータルは黒字でも一部門が赤字だからと安易に値上げしていいもののでしょうか？民間企業では利益を出すためには、経費や購入費を含めたコストダウンを徹底的に行います。しかし、コストダウンへの取り組みは全く示されていないにも関わらず 50 円。率にして 15% の値上げです。

値上げ理由が短絡的で、消費税増税に伴う便乗値上げと捉えられても致し方ありませんが、残念ながら賛成 13、反対 6（議長を除く）の賛成多数で可決となりました。

納得できる説明がないにもかかわらず、これほど賛成者が多いのには驚きました。



## なぜ百条委員会の設置に反対する？

菊池市中央図書館の椅子問題は、11 月の議会報告会でも市民の方々の関心が高いことがうかがえました。私としても経緯について執行部からの丁寧な説明がないまま、問題はないとの立場をとる姿勢には納得いきません。税金で購入している認識があまりにも希薄なように感じます。何の瑕疵（かし）もないのであれば、市民の方からの住民監査請求にもきちんと応えることができるでしょうが、監査結果と執行部の発言内容に大きな相違がある始末です。

今回、荒木崇之議員から百条委員会の設置を提案されました。執行部も議会も事実をはっきりさせる良い機会であるにも関わらず、本議会では賛成 4 反対 15（議長除く）で否決となりました。拒否する姿勢そのものに疑念を抱かざるを得ません。

### 1 百条委員会

地方自治法第 100 条に基づき、地方議会が設置し、自治体の長や議員の疑惑や不祥事の真相を究明する。通常の委員会よりも強い権限を持ち、調査対象の関係者に出頭を求めて聞き取りをしたり、証拠や記録の提出を要求したりすることができる。正当な理由なく証言を拒否したり、虚偽の証言をしたりした場合は、禁錮刑や罰金刑が科せられる。

出典（2017-12-26 朝日新聞 夕刊 1 総合）

## 訂正のご報告！

平成 30 年 11 月 19 日に七城公民館で行われた議会報告会において、菊池市中央図書館の椅子に対する市民の方からの質問に対して、総務文教常任委員長から「大津町でも 1 脚 10 万円の椅子を 30 脚購入している」との答弁がありました。その後、機関紙（月刊ポリシー 277 号）から指摘があり市議会でも調査したところ、大津町ではそのような椅子を購入された事実はないとのことでした。

委員長の誤った発言により、閲覧用椅子問題を紛らわす印象を与えかねず、市民の方に対しては議会の信頼を損ないかねない失態を反省するとともにお詫びいたします。

また、大津町に対しましては事実無根の発言により多大なご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。